

# Hands On

東京大学総合研究博物館  
ハンズオン

大槌町の身近なものを通して、先端科学を体感してみませんか？

先端科学でふれあうハンズオン・ギャラリー@大槌

大学で行われている先端科学研究では、さまざまなものが資料や標本として取り上げられます。そして、資料や標本から新しい学術知を導き出すためにさまざまな道具や手法が用いられます。大槌町や東北地方にゆかりのあるものにも資料や標本となるものがたくさんあります。そのような身近なものとともに、大学に保管されている、普段触れることのできない資料や標本を交えながら、先端科学の一端を体感してみませんか？

**2014年10月4日(土)** 大槌町中央公民館 大会議室／大槌文化ハウス 10:00～10:30 受付

◆ハンズオン・ギャラリー 〈大槌中央公民館 3階 大会議室〉

- 10:30～11:00 ハンズオン・ギャラリー① ブータンシボリアゲハと東北の希少昆虫 (矢後勝也・東京大学総合研究博物館)
- 11:15～11:45 ハンズオン・ギャラリー② 三陸沿岸に生育する海浜植物 (高山浩司・東京大学総合研究博物館)
- 13:15～13:45 ハンズオン・ギャラリー③ 大槌のアマモ場に生息する魚たち (黒木真理・東京大学大学院農学生命科学研究科)
- 14:00～14:30 ハンズオン・ギャラリー④ 大槌の貝殻に記録された環境情報 (白井厚太郎・東京大学大気海洋研究所)

◆モバイル展示 〈大槌中央公民館 2階 大槌文化ハウス 10:00～15:00〉

- モバイル① 年代を測るー加速器質量分析計 (尾崎大真・東京大学総合研究博物館)
- モバイル② 海外学術調査ー南米アンデスの研究史 (鶴見英成・東京大学総合研究博物館)
- モバイル③ 石器の使い方ーマイクロ痕跡の分析 (佐野勝宏・東京大学総合研究博物館)
- モバイル④ 動物の骨からたどる進化の歴史 (小藪大輔・東京大学総合研究博物館)
- モバイル⑤ 恐竜研究の根本と先端 (服部創紀・東京大学大学院理学系研究科)



主催：東京大学総合研究博物館 共催：大槌町教育委員会 協賛：パークレイズ・グループ 新日鉄興和不動産株式会社

# ハンズオン Hands On

## ●応募要項

モバイル展示と一部のギャラリー展示(ブータンシボリアゲハ)は常時開設しておりますので、ご自由にご覧いただけます。各ハンズオン・ギャラリーの定員は30名、複数のギャラリーのご希望も可能です(小学生は保護者同伴のこと)。募集は開催前日まで、先着順にご案内します。受講料は無料です。電話にて①参加希望ギャラリー、②氏名、③年齢、④住所、⑤電話番号をお知らせください。

〈応募および問い合わせ先〉

大槌町教育委員会 生涯学習課

TEL:0193-42-2300 / FAX:0193-42-3031

### 〈ハンズオン・ギャラリー〉

#### ●ギャラリー① ブータンシボリアゲハと東北の希少昆虫

日本の蝶類の現状と保全や、東北の被災前後の昆虫の変化などを標本にふれながら解説する。また、担当者自身による80年ぶりの再発見後、国産で被災地を訪問されたブータン国王陛下から東大博物館に寄贈された珍蝶(ブータンシボリアゲハ)やその調査史も標本の閲覧とともに概説する。(矢後勝也・昆虫体系学/保全生物学)

#### ●ギャラリー② 三陸沿岸に生育する海浜植物

東京大学植物標本室に収蔵された押し葉標本を観察して、岩手県の実地環境に生きる植物の生活史や繁殖戦略、分布変遷などを解説する。さらに、押し葉標本作製を実際に体験することで学術標本を身近に感じてもらおう。(高山浩司・植物系統進化学)

#### ●ギャラリー③ 大槌のアマモ場に生息する魚たち

大槌湾・根浜や船越湾・吉里吉里のアマモ場で採集された魚類の標本を手にとって観察し、震災後に回復しつつあるアマモ場で生息する魚類の種数やバイオマスについて解説する。(黒木真理・魚類生態学)

#### ●ギャラリー④ 大槌の貝殻に記録された環境情報

大槌の海から採取した二枚貝の殻に刻まれた成長線をデジタルマイクロスコップで観察し、そこから解る海の環境変化や貝の成長の様子などについて解説する。(白井厚太郎・古環境学・古生態学)

### 〈モバイル展示〉

#### ●モバイル① 年代を測るー加速器質量分析計

東大博物館に導入される炭素14測定専用のコンパクト加速器質量分析計の1/10模型や写真、また、実際に使用される部品の一部を展示し、装置についての解説を行う。さらに装置を利用した研究例などについても解説する。(尾崎大真・年代学)

#### ●モバイル② 海外学術調査ー南米アンデスの研究史

フィールド科学における先端性とは、研究テーマと手法の新規性のみならず、物象的な研究対象の新規開拓も当然含まれる。東京大学の半世紀におよぶ南米での考古学調査を例に、発掘資料にふれながら、日本人による海外学術調査の貢献を知り、また将来を展望する機会を作る。(鶴見英成・人類学的考古学)

#### ●モバイル③ 石器の使い方ーマイクロ痕跡の分析

先史時代の石器は、東北地方の各博物館で展示されているが、見た目からその使い方を推察することは難しい。東北地方の縄文時代の遺跡から出土した石器を観察し、石器に残されるマイクロな使用痕跡から、その機能を同定する方法について解説する。(佐野勝宏・先史考古学)

#### ●モバイル④ 動物のホネからたどる進化の歴史

野山や海、川などの様々な動物の実物骨格標本にふれながら動物のカラダの進化の歴史と適応について考える。大槌と古くから関わりのあるイトヨやイルカ、クジラなどの身近な動物の進化についても解説する。(小敷大輔・進化形態学)

#### ●モバイル⑤ 恐竜研究の根本と先端

岩手県では、日本で初めて恐竜類の化石が発見され、久慈市では近年、数々の脊椎動物化石が発見されている。古脊椎動物学的な観点から地域の重要性にふれつつ、上記のような化石の発掘からさらに後のプロセスにある自身の研究内容を交えて、同分野の最先端の研究成果を紹介する。(服部創紀・古脊椎動物学)

